



第38号の目次

- 1) 「第30回 八都県市合同防災訓練」報告
---矢代 幸雄、古賀 陽一、夏賀 英樹、山田 泰、夏賀 英樹
- 2) 上越市防災訓練について ---萩原 達也
- 3) ハヶ岳便り-Ⅱ ハヶ岳倶楽部と救護ボランティアについて
---中島 信義
- 4) 珈琲ブレイク アフリカ大地溝帯 ---池田 喜由

第30回 八都県市合同防災訓練報告 (神奈川県・小田原市合同)

2009年8月31日 バイク隊1班報告 その1 矢代 幸雄

09年8月30日八都県市防災訓練に参加した。会場は小田原市酒匂川スポーツ公園である。

私はバイク隊 1 班で救援物資を箱根町うすい自治会防災訓練会場まで届けることである。1 班メンバーは清水RB大石隊員、神奈川RB伊藤隊員、古賀隊員、矢代の 4 名である。

早めの到着であったのでパレード会場を視察後、参加車両待機場所に戻るとき二俣川講習会でお世話になった2交機の伊藤部長にお会いした。今回 GSF1200P で参加しているとのこと。私のことを覚えていてくれたようで声をかけていただいた。

9:50になりRB本部沢田隊員の指示により救援物資を受け取り会場を出発する。途中、古賀隊員のバイクが R1 を上げて行くのがきついとのことなので急遽、箱根町役場で古賀隊員に待機してもらい



【搬送物資の受け取り】

大石隊員、伊藤隊員、矢代の 3 名で無線中継地点に向かう。



【無線中継局の伊藤隊員】

宮の下T字路から R138 を 100m ほど東進した北側の無線中継地点で伊藤隊員に無線中継駐留してもらい、大石隊員、矢代でうすい自治会防災訓練会場に向かう。このあたりまで来ると高度がある為か結構涼しい。

うすい自治会防災訓練会場で先方の担当者に無事、救援物資を渡し中継の伊藤隊員に報告する。

事前調査にてうすい自治会訓練会場と酒匂川スポーツ公園に設置したRB本部とは、無線が直接届かないことを確認していた通り、伊藤隊員の発信は受信できるが RB 本部沢田隊員への直接の交信



は不可能であった。うすい自治会防災訓練会場での物資受け渡しの証拠写真を撮影してもらい、大石隊員と矢代が伊藤隊員の待つ無線中継地点に戻る時、霧雨が降ってきた。

【1班:搬送物資の手渡し、左端は清水 RB の大石代表】

伊藤隊員と合流した後、古賀隊員の待機する箱根町役場に到着。1 班は距離が長いのでここでトイレをお借りした。役場内では選挙が行われていた。発災時にはここも災害対策室となるだろうが、急坂の上にあるためたどり着くのは困難になると思慮される。

さて、全員揃って訓練会場に戻る途中、雨足が強くなったので、先日の訓練でコネクターより浸水したハンディ無線機が復旧するのに時間を要したことを教訓に、ジャケットで隠し保護しながら訓練会場に無事帰還し RB 本部沢田隊員に任務完了の報告を行った。

今回ヘルメットマイクを使用してみたが使い勝手はおおむね良好であったが、ケーブルの処理についてはまだまだ改良の必要がある。無線の話術については上級者からすれば未熟であるが低いレベルの個人的には「上達したぞ」と自分をほめてあげた。

最後に訓練準備等にご尽力を尽くされた後藤隊員他RBメンバーと遠方より駆けつけていただいた清水 RB 隊員の皆様には心より感謝いたします。

バイク隊1班報告 その2 古賀 陽一

先日は神奈川県・小田原市合同総合防災訓練参加お疲れさまでした。バイク隊員として訓練に参加させて頂いたことに感謝します。1班搬送訓練の内容ですが、すでに矢代隊長よりご報告がありましたので蛇足になりますが伊藤隊員より無線中継の補足報告がありましたので、1班のバイク隊員としての見解を述べます。

防災訓練計画書にて1班(箱根町うすい自治会)への搬送物資依頼は当初、缶入りソフトパン 24 缶入り 4 箱と予定されていました。しかし、訓練当日朝、出発直前になって実際の搬送依頼が缶入りソフトパン 24 缶入り 4 箱が 2 箱に減少変更されていました。

したがって、その時点で、矢代隊長は1班のバイク隊(4台)規模縮小を検討されていたのではと推察します。また、当初の計画では、無線中継担当を7M4TBA(古賀、144/430、5ワット送信、簡易モバイルホイップ)の予定でしたが、より無線機能の優れたJE1BQT(伊藤隊員、144/430、10ワット送信、モバイルホイップ)へとグレードアップされました。

小生は、矢代隊長並びに後藤隊長に無理を言って箱根町役場までの随行許可をいただき、1班の任務である箱根町うすい自治会への搬送物資が完了して箱根町役場にて合流するまで役場付近にて待機しました。役場付近にて待機中、JE1BQTによる宮城野中継点とJQ1YOB小田原本部との交信を受信していましたが、電波の伝搬状況がリハーサルのときに比べ芳しくなく、利得を確保できず難儀していたので、7M4TBAは急遽、箱根町役場付近を第2中継点として立ち上げ、小田原本部との中継を補佐しました。

宮城野地区への箱根登山参加に関しては、他隊員のバイク(XJRI300、VFR-800、T-Max)に比べ小生TT250Rレイドという10年程前に生産中止となった単気筒マシンにて非力であること、それから、マシンの非力さをカバーする技量も持ち合わせていないと思いましたが登山は断念、箱根町役場待機となりました。

尚、1班の搬送任務である缶入りソフトパン24缶入り2箱は清水RB大石隊員(T-Max)によって無事搬送されたとのことでした。

【編集者補足】

伊藤さんからの後日報告にて、1班矢代さん⇒伊藤さん⇒古賀さん⇒RB本部沢田さんの2段中継で報告がなされていたことが分かり、それに対するメンバーのコメントです。

■1班リーダー 矢代さん:

なるほど、予行とは異なった状況でも私の全く気が付かない場面で上手く対応してくれたようですね。神奈川RBの仲間は心から頼りになると改めて思いました。その場に応じた臨機応変な対応、さすがです。二重の中継となっていたとはうすい会場では全く気が付きませんでした。1班メンバーの方々の補足に感謝します。

■本部基地局 沢田さん:

実は本部局でも、1班との通信中に予定に無かった“待機場所”局の登場に戸惑ったのですが、どうやら中継局からの電波が本部に届いていないことから、中継局からの電波を更に中継しているらしいことがわかり、矢代さんが感じられたのと同様に、その臨機応変さに感心しておりました。



【本部無線基地で奮闘する沢田さんと清水RB千代さん】

バイク隊2班報告 夏賀 英樹

バイク隊2班の構成員は清水RB秋元殿、神奈川RB佐藤殿、夏賀の三名であった。2班の訓練内容はカップメン12食入り2箱を避難所へ搬送するというものである。目的地となる避難所は南足柄地蔵堂公民館であり経路距離にしておよそ17kmである。



【バイク隊2班のルート】

前日の試走では土曜の夕方でもあったためか経路上で渋滞が発生しており、タイムテーブル上、余裕がないことが判明していた。前日の結果から裏道を選択すべきが否か判断に悩んだが、実際の道路状況に応じて臨機応変に経路を選択することとした。

出発時に救援物資の搬送を秋元隊員と佐藤隊員にお任せし、移動を開始したが、果たして当日は日曜の午前でもあった関係が非常にスムーズな交通流であった。

経路途中では2005年の足柄市防災訓練での拠点や目標地点を通過することもあり当時の記憶もよみがえってきた。目的地となる地蔵堂公民館には数十分前に到着し本部への報告を行ったが、このとき遠隔地であることと山間であることから交信が成立しないであろうと考えていたが、まったく問題がない状態で大変驚いた。やはり沢田殿の指導によるアンテナ換装やグラウンドの取り方が効いていたのかと感心するとともに改めてアマチュア無線の有用性を実感した。しばらくして県担当者も定刻通りに現れたので、ここで救援物資を受渡し本部へ報告の後、帰路についた。

帰路については本部手前1km強の地点で交通が滞留し帰着予定時間が差し迫ったが、迂回路の検索に成功し事なきを得た。この時点で一時的に雨脚も強くなり後のパレード参加のことも考えて雨天装備をすることとした。

話は少し寄り道するが、このとき新幹線の高架下で雨具を着込んでいる最中に1班が帰着し我々2班の横を通り抜けていった。

まさしくそのタイミングで陸自双発大型ヘリのチヌークが舞い降りてきたのだが、これが映画のワンシーンのように1班の後姿と重なった状態となり非常に絵になる風景となった。残念ながらカメラを取り出すのが間に合わず撮影することは叶わなかったが、決して大げさな表現でなく一生の記憶に残るような名場面であった。



【訓練会場に舞い降りた陸自双発ヘリ チヌーク】

さてパレードにも問題なく間に合うこともでき会場内も周回できたわけであるが、会場内を周回していきながらも関係諸団体との横の関係の希薄さも気になってきた今回の訓練ではあった。

展示コーナー担当 山田 泰

神奈川県RBが神奈川県の防災訓練にはじめて参加したのは、1998年の南足柄市会場で、その後2002年以降は毎年参加し今年で9回目となった。当初は、「災害時になにか役立ちたい」との使命感を持つボランティア集団ではあるが募集できる確実な人数は直近にならないとわからない。何度も繰り返し参加者を募ってきたことを思い出す。

当時、行政の担当窓口の方も年1度の大きな行事にボランティアの活動を訓練プログラムに入れるには大変な勇断であったのではないと思う。しかし、参加させて頂く中で私たちは様々な経験とノウハウを蓄積してくることが出来た。本年の小田原会場ではバイク隊の活動範囲は箱根宮城野、篠窪、地藏堂、久野、桑原、東町と今までになく広く設定された。計5回の現地走行を実施し各地点の地理の詳細把握を行った。

毎年のことであるが、訓練当日の成果はもとより事前調査走行によって得られる成果も大変多い。小田原市の山間地、酒匂川を挟んだ平地、川の上流のダム、そして前面の海。県西部の中心であることをあらためて認識できた。毎年訓練場所が変わることでその地の地理的特性を把握でき、地元の方々との交流もできる。

今後も継続して訓練に参加させて頂き、様々なスキルアップを図りたいと思う。



【関係機関に説明中の山田さん】



【無線基地と展示コーナーを手伝っていただいた清水RB千代さん御夫婦】



【バイク隊パレード風景】



【最後に参加者全員で記念撮影】
清水RBの皆様、遠いところ参加していただき、ありがとうございました。

9/5 上越市防災訓練について

萩原 達也

本来の目的は隣県長野RBからのバイク隊支援という想定でした。結果的には、遠隔地へのバイクボラ参加の方法。トランポを活用し、ベースキャンプの確保。この二点が、実施できました。

金曜日の夕方に横浜を出発して、相模湖～中郷まで高速道路を利用。一般道を通り、活動地域に近い道の駅を探し、道の駅あらいで、車中泊をしました。



翌朝は7時に出発して、避難所のある、上越市某地区の体育館へ。新潟RBからは10名ほど参加。

【新潟RBのバイク達】

防災訓練の内容は、バイク隊は周辺の学校への物資輸送、情報収集でした。地域住民を中心とした防災訓練だったため、実際に地



【避難訓練の様子】

元住民が避難、その際、要介護支援者はリヤカーに乗せ、避難してきました。



bb ハケ岳便り ##

『ハケ岳倶楽部』と救護ボランティアについて

中島 信義



8月6日に発行された柳生博氏著書『ハケ岳倶楽部Ⅱ・それからの森』に私が地元で実践している救護ボランティア活動が紹介されました。



【『それからの森』の著者・柳生博さんと奥様・加津子さん、左が坊主頭の中島さん】

柳生博さんご家族は30年ほど前にこの荒廃した針葉樹林帯に広葉樹を中心とした里山の復活を目指して力を合わせ今の環境を創造されました。さらに20年前からそこに多くの山を訪れる人達に憩いと開かれたコミュニケーションの場所を提供すべく様々な自然をテーマとした芸術的なイベント施設を運営されています。ハケ岳倶楽部は自宅から3分程の距離です。これらの詳細は本をご覧いただきたいと思います。家族、人と人とのつながりの素晴らしさ、自然と人との関わりについて読者に解りやすく話しかけています。素晴らしい書籍と思います。

私がハケ岳に移住してから「お好み焼き おにがわら」を運営する傍ら、地域での応急手当普及の為に柳生さんが経営される「ハケ岳倶楽部」の社員皆さんに応急手当の指導を数年前から継続することで親交を持つに至りました。

今や倶楽部は開業20周年を迎えると同時に幼児から高齢者まで年間15万人をお迎えする県内有数のここの施設で来場者の増加に伴い、年々怪我人や急病人が発生するようになりました。救急車が到着するまで社員皆さんの手で応急手当が出来るよう柳生さんを先頭に熱心な講習会が毎年続けられています。私も地元消防本部のご協力のもとに救護指導を重ねてきました。このような関係で今回の新刊書に登場させて頂いた次第です。

その後、9月には地元のFMラジオ局「エフエムハケ岳」で私の救護ボランティアについてのトーク番組(45分)がオンエアされました。局はハケ岳南麓の地域防災、地域医療をテーマとした番組に特徴があり、多くの店のお客さんや知人から番組を聴きましたとの連絡をいただきました。

これからも地域での応急救護ボランティア活動にまた、11月からスタートする「山梨ドクターヘリ研究会」のメンバーに加えさせていただき、併せて沖縄県北部地域での民間ドクターヘリ「MESH」の運行継続に向けた活動を充実させていきたいと考えています。皆様のご支援をお願いします

【編集者補足】

柳生さんは写真をご覧になればもちろん皆さんご存じと思いますが、奥様・加津子さんも元女優として活躍され、その後、アニメルパン三世の峰不二子役、その他いろいろの声優もなされた方です。

♪♪ 珈琲ブレイク ♪♪

アフリカ大地溝帯

池田 喜由



アフリカ大陸東部には、巨大な地球の裂け目が南北に走る。通称リフト・バレー(隆起谷)と呼ばれている。北はシリアとイスラエルの国境グラン高原に発し、ヨルダンとイスラエルの間に横たわる死海、アカバ湾、紅海、エチオピア高原、ケニア高地を走り、南は遠くマラウイ共和国のマラウイ湖に至る。総長7000km、幅30km～120kmに及ぶ。

地下のマグマが丁度この辺りで上向きに対流しており、地殻を押し上げている為地表が盛り上がり、遂に裂け割れたものだそうだ。こ

の大地溝帯の底にアルカリ度の高い湖、ナクル湖がある。35年程前、ザンビアへ向かう途中ナイロビに立ち寄った。その時から一度は訪れてみたいと思っていた場所である。

今回思わず機会が飛び込んできた。ナイロビに赴任してから1ヶ月程経ったある休日だ。仕事仲間と一緒に訪れることができた。ナイロビは1500mの高地に、かつて英国が鉄道建設の為に作った作業場から発展した街である。赤道直下近くにありながら、高地であるのでとても過ごし易い。市内からA104を北西に良く整備された舗装路を車は高度を確実に上げながら1時間ばかり走ると、地溝帯の淵ロンゴノート・ルックアウトに到着する。標高2500m。眼前の切り立った崖から大地溝帯がとてつもないスケールで広がる。



【地溝帯の底に一際目立つ休火山のロンゴノートが大きな火口を覗かせる】

この裂け目は今尚広がっていて、何百万年後にはアフリカ大陸は2つに分断される運命にあるらしい。地溝帯中央に大きな火口を開けた休火山 Longonote 山が聳える。地球の活動は天文学的である例を見事に見せてくれる場所の一つに違いない。

再びA104を北西に、更に高度を上げながら進む。最高地点は何と2700mもある。スイスのヌフェネン峠や、日本の乗鞍スカイラインに匹敵する高さだ。道は崖の側面を斜めに長い下り坂を下る。谷底に達すると比較的平坦な地形が続く。谷底には地下水脈があるのか、所々に大規模な灌漑設備を備えたハウス栽培の大農場が見られる。



【地溝帯の底には、わりと平坦な道が続く。両脇にはアカシアの灌木】

一方幹線道沿いには乾燥地に良く見られるアカシアの林が両脇まばらに広がる。ナクルは人口20万を超える大都会である。

街を抜け、緩やかな下り坂を湖に向かって下る。アカシアの灌木に囲まれたナクル湖国立公園のゲートを過ぎると、公園管理事務所があり、ここで入園料を支払う。非居住者は一人60ドルだ。湖の周囲に設けられた未舗装のサファリ道路を回る。所々で湖のほとり迄出ることができる。この公園内にも幾つかの設備の整った宿泊設備を備えたロッジがある。

そんなロッジの一つ、サロバライオン・ロッジにランチ休憩に寄った。少し高い斜面にあり湖が見下ろせる位置にある。立派な車寄せでは、冷やした濡れたタオルのサービスがある。広くアレンジされた設備内の渡り廊下を下るとブッフエ・スタイルのフルコースランチが楽しめるリゾート風の半オープンレストランが広がる。2人用のテーブルに案内してもらい、多くの外国人、国内からの観光客に混じり豪華なサファリランチを楽しむ。

ナクル湖周辺の未舗装サファリ路を一日走った後、埃まみれになった車と体を少し休める為、公園出口手前にある土産店兼カフェに立寄る。椅子に座って飲む一杯の珈琲が旨い。

店にはスタッフの一人がマサイ衣装に身を包み、客のサービスに余念がない。写真を撮らせて貰うと、ビール一杯奢ってくれるかと言う。ビール一杯は300シリング(500円)だ。相応のチップを手渡すと、埃まみれの帽子をいきなり取り上げ、洗ってきてやろうと姿を消した。暫くするときれいに洗濯された帽子が戻ってきた。満ち足りた気持ちで帰りの車の座席に身を任せた。



【マサイ族の衣装を纏った土産物屋のスタッフ】

アフリカに、ナクルに、運転手に、多くのナショナル・パークのスタッフに感謝。



【シマウマは用心深い、一匹が砂浴びをしている間、数頭が周囲を警戒する】



【夥しい数のペリカン、本当はフラミンゴが見たかったのだが】

